

提出が遅れてすみません。なんせ途中障害ですので困難をきたしております。ひとりひとり障害の度合いが違います。私にとっては読むことは生きることなのです。その読むことが視力がなくものすごい時間をかけ悪戦苦闘しております。健常者の方には理解できないこととおもいます。話すことは出来ますので、今のところ周りの人たちの援助で生活しています。私たちが暮らす社会には、情報の入手や発信に不自由を感じながら生活している高齢者や障害者が多くいます。

高齢者と障害者の皆さんのため

読み書き(代読・代筆)に困っている人達を放置することは許されないことではないでしょうか。五年後・十年後に体制が整ってから読み、書きサービスが実現すればよいというようなものではないと思います。

「読み書き」は人間が社会生活を営み、生き

ていくうえで欠かすことの出来ない技能だとむかしからいわれてきましたが現実には障害などを理由に就学、就労ができない人達が大勢いると推測されます。

聴覚障害者・発達障害者・肢体不自由者・精神的障害者・難病者の方たちにもおなじことが言えることではないでしょうか。

差別事例分析表にもとずいて 200 項目近く事例対応策を記載しなければならないのですがほとんどが基本は記載されていることが前提だと思います。私事で申し訳ありませんが読むことに時間が健常者の何倍もかかり(視野が欠けているため)ます。書くことも同じです。パソコンも同じこと。でくるだけ努力しますが根を詰めると炎症が起きるので中止しなければなりません。

でも、障害者になって本当に勉強になりました。そして、皆さんから元気と勇気をもらいました。

新潟市だけでなく、日本全国これからは学校

の授業の一環として手話・点字を取り入れることが必要だとおもいます。県名は忘れただけですでに実行している自治体もあります。

突然おきる災害、東日本大震災被災三県では被災者に対しは様々な資料が配布されてきましたが視覚障害者やお年寄りにはほとんど伝わっていなかったとききました。福島第一原発事故の状況などはメルトダウンした原発の状況や放射線の地域分布なども、ほとんどの方がわからないと、いわれたそうです。自主非難してこられた方からとボランティアに何回も行かれた方から聞いた話です。

今の社会は、高齢者も若者も、障害のある人もない人も、様々な人が一緒に生活している共生社会です。困っている人がいれば、周りの人が助け合うことによって成り立っている社会です。保育所の数ほど地域で交流ができる沙龙的な場所を作るべきではないでしょうか。

障害のある人達にすこしの援助で元気になり社会参加ができれば、お年よりも同じです。お

年寄りの知恵の素晴らしさや障害者の生きる力や工夫を学ぶ、ほんの少しの税金で健康で元気な市が出来、医療費の出費も少なくなるのではないのでしょうか。

障害者サービスの実施状況で新潟市はどこまで進んでいるのでしょうか。市・区から発行されるたよりや議会報告、制度のお知らせはc dやカセットテープで郵送されてきます。これも申請しなければなりません。本当に遅れています。障害者の利用サポートが。手話・点字のできる職員は何人窓口配置されているのですか。

視覚障害者(弱視・視野狭窄・眼圧・眼球などに障害のある人)だけでなく、発達障害、学習障害をもつ人達「読みに困難のある人」への情報提供の有効な手段が早急に求められているのではないのでしょうか。また、日常生活で必要な書類が読めないことが一番つらいです。趣味の本を読む以前の問題です。たとえば家電製品説明書が読めない、読めないから使いこなせない。役所から郵送されてくる書類、重要な文章、保険

証の小さいこと等、事例を挙げたらきりがありません。どんな障害の人でも誰でも多種多様なグッズが揃うロービジョン専門店が新潟市に出来、業者の方の協力をえて器具のサービスが行政からの支援を受けられるよう条例案に取り組んでいきたい。

災害は突然きます。防災無線の問題・地震計の設置はどうなっているのか、移動が困難な人が多くいる地域でのきめ細かい取り組みを図っていくことが求められています。障害者自立支援法のなかのコミュニケーション支援ですら、聴覚障害については手話通訳士派遣などは明確に保障されているものの、視覚障害のついては具体的にはなっていないと聞いております。車椅子による移動手段、過疎地になればなるほど問題が山積みしています。プライバシーがきちんと守られ情報バリアのない共生社会めざしてこそひとりひとりが大切にされる新潟市が実現できるのではないのでしょうか。

片桐 洋子